

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

## 令和5年第50週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (50 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：報告なし。3 類感染症：報告なし。
- 4 類感染症：E 型肝炎 1 例、つつが虫病 2 例、レジオネラ症 1 例。
- 5 類感染症：急性脳炎 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、梅毒 3 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
4類	E型肝炎	宮崎市	60歳代	男	—	なし
	つつが虫病	宮崎市	70歳代	女	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
		都城	60歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口
	レジオネラ症	宮崎市	80歳代	男	ポンティアック熱型	発熱、咳嗽、鼻水、痰、倦怠感
5類	急性脳炎	宮崎市	70歳代	男	インフルエンザウイルスA	発熱、頭痛、意識障害、四肢麻痺、構音・嚥下障害
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	都城	60歳代	男	—	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状
	梅毒	宮崎市	30歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			60歳代	男	晩期顕症梅毒	神経症状、腎機能障害、肝機能障害
		都城	40歳代	男	早期顕症梅毒 I 期	初期硬結

### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 4,134 人(定点当たり 82.2) で、前週比 105%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症及び感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び手足口病であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 216 人(3.7)で、前週比 127%と増加した。日南(7.0)、延岡(6.6)、日向(5.2)保健所の報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

##### 【インフルエンザ】

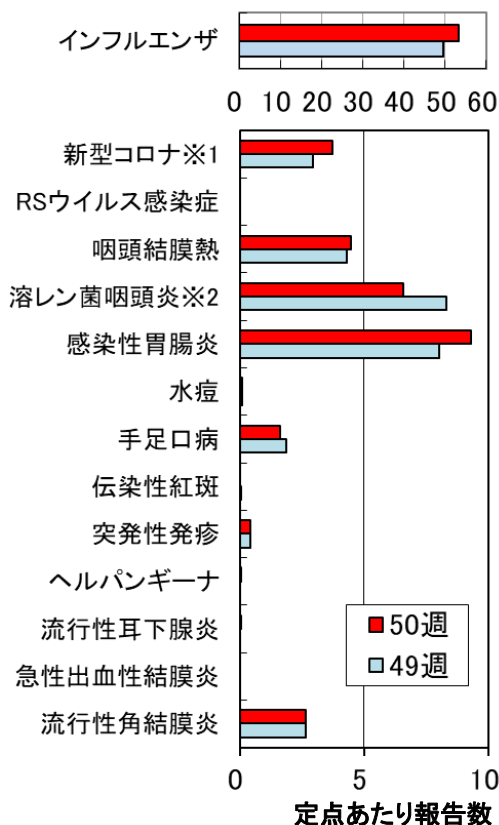
報告数は 3,089 人(53.3)で、前週比 107%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(3.2)の約 16.7 倍であった。中央(89.0)、延岡(86.9)、高鍋(68.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

##### 【咽頭結膜熱】

報告数は 161 人(4.5)で、前週比 104%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.75)の約 6.0 倍であった。都城(9.0)、宮崎市(7.2)、延岡(4.0)、中央(4.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は 1 歳から 5 歳が全体の約 7 割を占めた。

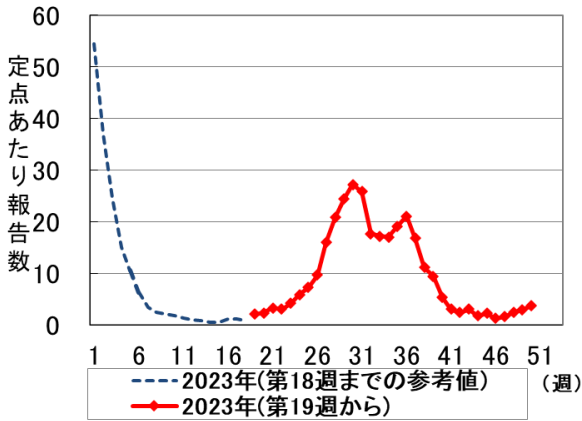
\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均

《前週との比較》

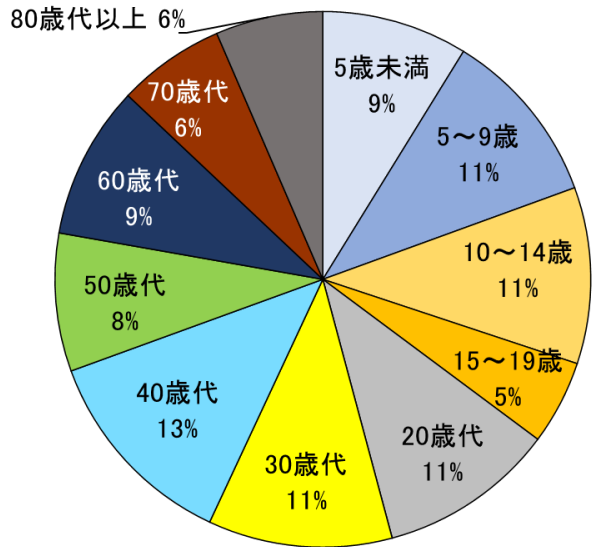


※1 新型コロナウイルス感染症  
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

新型コロナウイルス感染症 発生状況

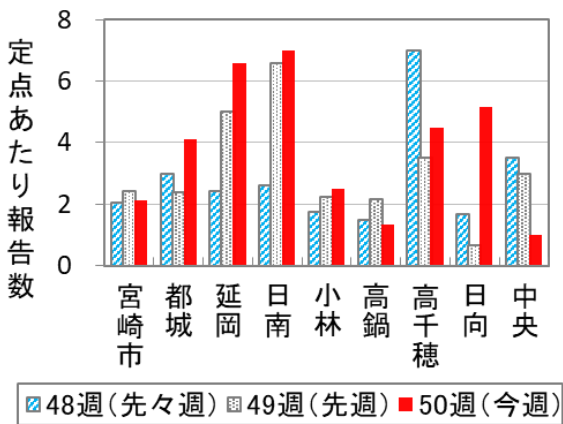


新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第50週)

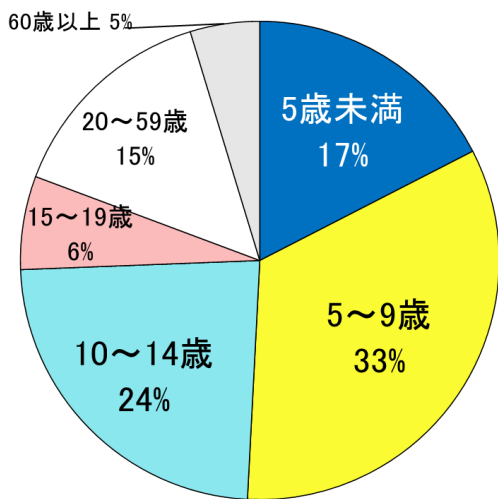


※新型コロナウイルス感染症の第1週～第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

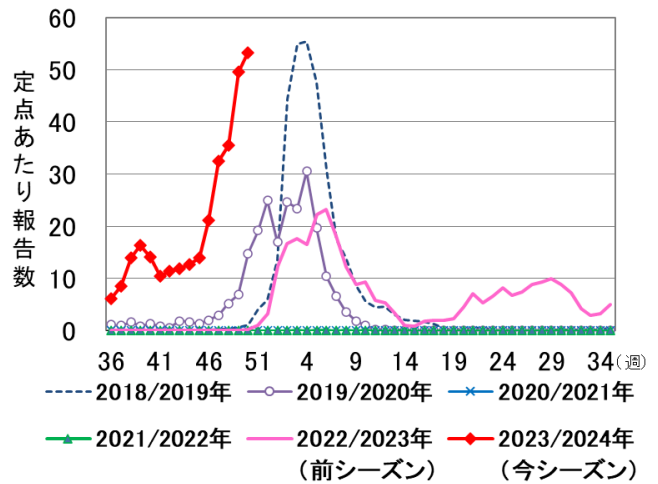
新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



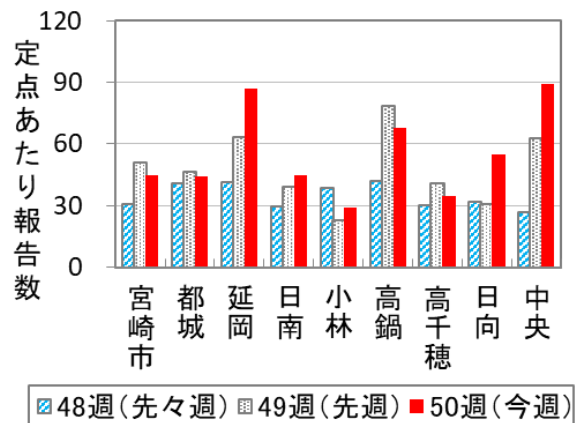
インフルエンザ年齢群別グラフ(第50週)



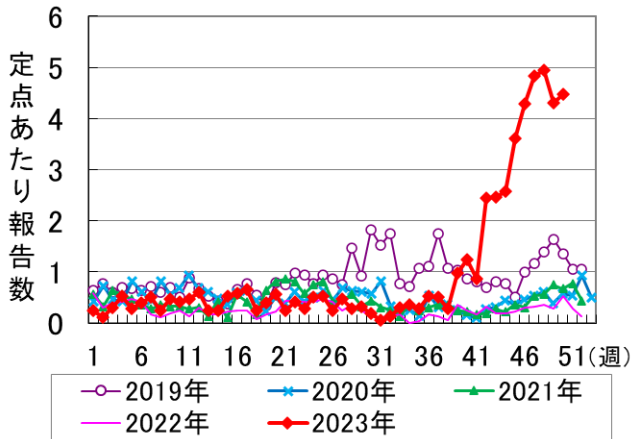
インフルエンザ 発生状況



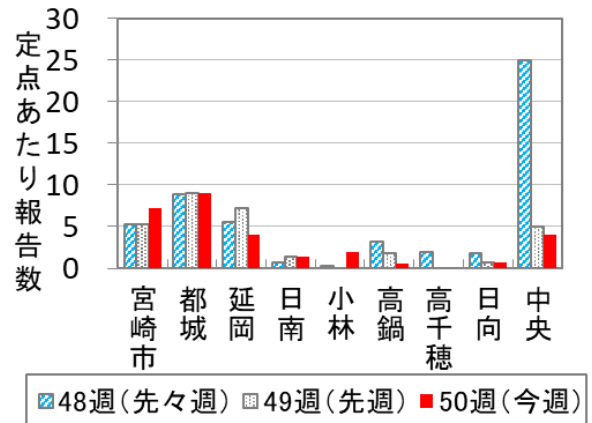
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



咽頭結膜熱 発生状況



咽頭結膜熱 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	インフルエンザ(44.6)、咽頭結膜熱(7.2)、 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.2)
都城	インフルエンザ(44.4)、咽頭結膜熱(9.0)、 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.3)
延岡	インフルエンザ(86.9)、咽頭結膜熱(4.0)
日南	インフルエンザ(44.6)、 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(16.7)、 感染性胃腸炎(23.3)、手足口病(5.3)
小林	インフルエンザ(29.0)
高鍋	インフルエンザ(68.0)
高千穂	インフルエンザ(35.0)
日向	インフルエンザ(54.7)
中央	インフルエンザ(89.0)、咽頭結膜熱(4.0)

\* 流行警報レベル開始基準値 \*

- ・インフルエンザ(30)
- ・咽頭結膜熱(3)
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8)
- ・感染性胃腸炎(20)
- ・手足口病(5)

\* 流行注意報レベル基準値 \*

- ・インフルエンザ(10)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年12月18日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O157:H7)	50歳代	男	2023.11.02	無症状	便	2023.11.14
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	30歳代	女	2023.11.08	無症状	陰分泌物	2023.11.16
EHEC(O111:HNM VT1)	20歳代	男	2023.11.26	無症状	便	2023.12.01
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	女	2023.11.27	無症状	便	2023.12.01
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	男	2023.11.27	無症状	便	2023.12.01
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	女	2023.11.27	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.12.04
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	女	2023.11.27	胃腸炎(水様性下痢)、その他(食欲不振)	便	2023.12.04
EHEC(O111:HNM VT1)	20歳代	女	2023.11.29	無症状	便	2023.12.04
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	男	2023.11.30	胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.12.04
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	男	2023.12.01	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.12.06
EHEC(O111:HNM VT1)	0～4歳	女	2023.12.01	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.12.06

○保育施設において腸管出血性大腸菌 O111 (VT1) の集団感染が発生した。腸管出血性大腸菌は経口感染し、少ない菌量でも家族や保育園等の集団で感染が拡がることのあるため、食材の加熱、調理器具の消毒、手洗い等を徹底する必要がある。厚生労働省による「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018年3月改訂（2023年5月一部改訂））では、おむつ交換について、①糞便処理の手順を職員間で徹底する。②おむつ交換は、手洗い場があり食事をする場所等と交差しない一定の場所で行う。③おむつの排便処理の際には、使い捨て手袋を着用する。④下痢便時には、周囲への汚染を避けるため、使い捨てのおむつ交換シート等を敷いて、おむつ交換をする。⑤おむつ交換後、特に便処理後は、石けんを用いて流水でしっかりと手洗いを行う。⑥交換後のおむつは、ビニール袋に密閉した後に蓋つき容器等に保管する。⑦交換後のおむつの保管場所について消毒を行う。などのことが推奨されている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Influenza virus A H1pdm09	70歳代	女	2023.10.30	インフルエンザウイルスA型、咳、関節痛(首・肩)	鼻咽頭ぬぐい液	2023.12.05
Influenza virus A H3	5～9歳	男	2023.11.06	インフルエンザウイルスA型、39.1℃	咽頭ぬぐい液	2023.12.11
Influenza virus A H1pdm09	10歳代	男	2023.11.08	インフルエンザウイルスA型、39.4℃、倦怠感、咳	鼻咽頭ぬぐい液	2023.12.11
Influenza virus A H1pdm09	5～9歳	女	2023.11.14	インフルエンザウイルスA型、40.8℃、	咽頭ぬぐい液	2023.12.12
Influenza virus A H3	10歳代	男	2023.11.17	インフルエンザウイルスA型、39.2℃、上気道炎(咽頭痛)、倦怠感、咳	鼻咽頭ぬぐい液	2023.12.05

## 🇯🇵 全国 2023 年第 49 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	233 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	38 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	9 例	エムボックス	1 例	回帰熱	1 例
	つつが虫病	46 例	デング熱	3 例	日本紅斑熱	2 例
	マラリア	2 例	レジオネラ症	34 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	28 例	急性脳炎	14 例
	クリプトスポリジウム症	1 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	21 例
	後天性免疫不全症候群	11 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	11 例	侵襲性肺炎球菌感染症	50 例
	水痘(入院例)	11 例	梅毒	192 例	播種性クリプトコックス症	1 例
	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	29 例
	麻しん	2 例				

### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 120%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナであった。

インフルエンザの報告数は166,690人(33.7)で前週比126%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(2.5)の約13.5倍であった。北海道(61.0)、宮城県(57.5)、大分県(53.7)からの報告が多く、年齢群別では15歳未満が全体の約7割を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は15,196人(4.8)で前週比116%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(1.6)の約3.0倍であった。鳥取県(10.7)、宮崎県(8.3)、千葉県(8.2)からの報告が多く、年齢群別では4歳から8歳が全体の約6割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

宮崎県 感染症情報

(71 定点医療機関)

2023年 第50週(12月11日～12月17日)

疾病名		第49週	第50週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2879	3089	714	444	608	223	116	408	70	328	178
	定点当り	49.64	53.26	44.63	44.40	86.86	44.60	29.00	68.00	35.00	54.67	89.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	170	216	34	41	46	35	10	8	9	31	2
	定点当り	2.93	3.72	2.13	4.10	6.57	7.00	2.50	1.33	4.50	5.17	1.00
RSウイルス感染症	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	155	161	72	54	16	4	6	2		3	4
	定点当り	4.31	4.47	7.20	9.00	4.00	1.33	2.00	0.50	0.00	0.75	4.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	299	237	82	50	24	50	5	10		15	1
	定点当り	8.31	6.58	8.20	8.33	6.00	16.67	1.67	2.50	0.00	3.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	289	335	120	53	6	70	38	7	8	30	3
	定点当り	8.03	9.31	12.00	8.83	1.50	23.33	12.67	1.75	8.00	7.50	3.00
水痘	報告数	3	3	1				1	1			
	定点当り	0.08	0.08	0.10	0.00	0.00	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	68	59	30	4		16	3	1		5	
	定点当り	1.89	1.64	3.00	0.67	0.00	5.33	1.00	0.25	0.00	1.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	1										
	定点当り	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	16	15	7	2		1	1	1		2	1
	定点当り	0.44	0.42	0.70	0.33	0.00	0.33	0.33	0.25	0.00	0.50	1.00
ヘルパンギーナ	報告数		2	1								1
	定点当り	0.00	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
流行性耳下腺炎	報告数		1	1								
	定点当り	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	16	16	7	8	1						
	定点当り	2.67	2.67	2.33	4.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～50週保健所受理分)

2類感染症	結核	106例		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	27例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	1例(1)	重症熱性血小板減少症候群	12例
	日本紅斑熱	14例	レジオネラ症	8例(1)
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	4例(1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6例(1)	後天性免疫不全症候群	5例
	侵襲性肺炎球菌感染症	15例	水痘(入院例)	4例
	播種性クリプトコックス症	5例	破傷風	2例
			つつが虫病	27例(2)
			レプトスピラ症	2例
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	4例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例
			梅毒	170例(3)
			百日咳	5例

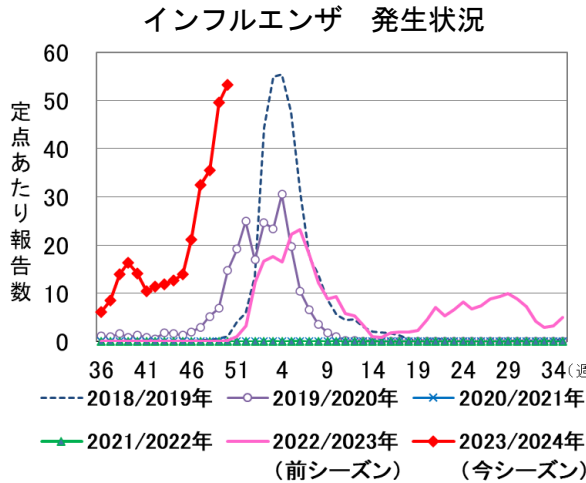
( )内は今週届出分、再掲

## インフルエンザ情報《県内第50週、全国第49週（再掲）》

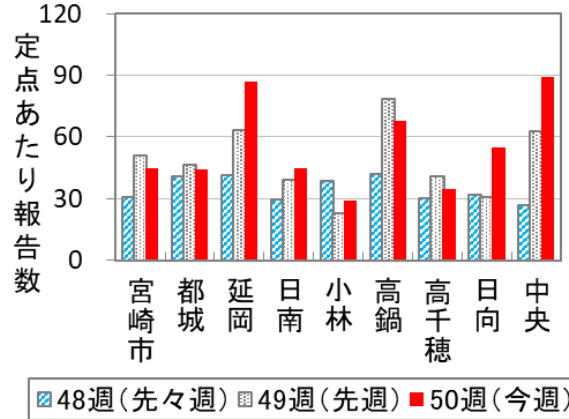
### □ 県内第50週インフルエンザ発生動向

12月11日～12月17日までの1週間で3,089人(53.3)の報告があった。前週比107%と増加し、例年同時期の定点あたり平均値\*(3.2)の約16.7倍であった。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



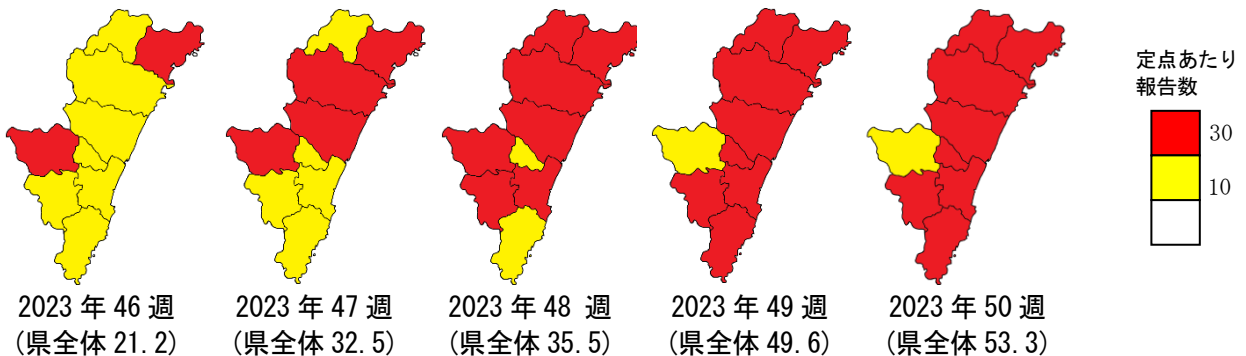
### インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



### 年齢群別割合の推移(2023年第46週～第50週)

3,089人 50週	17%	33%	24%	6%	15%	5%
2,879人 49週	19%	33%	24%	6%	15%	3%
2,059人 48週	19%	35%	23%	5%	15%	3%
1,885人 47週	15%	33%	28%	5%	16%	3%
1,227人 46週	16%	34%	24%	9%	14%	3%

### 保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2023年第46週～第50週



### □ 全国第49週インフルエンザ発生動向

12月4日～12月10日までの1週間で166,690人(33.7)の報告があった。前週比126%と増加し、北海道(61.0)、宮城県(57.5)、大分県(53.7)からの報告が多かった。年齢群別では5歳未満が全体の15%、5-9歳が31%、10-14歳が23%、15-19歳が8%、20-59歳が19%、60歳以上が4%であった。